

やんばるストーリーブック

人と自然がつなぐ
やんばる未来日記



Ver. 1.0

やんばる国立公園インタープリテーション全体計画

目次

1	はじめに	01
	1-1 まえがき	
	1-2 メッセージ	
2	インタープリテーションの目的	04
	2-1 インタープリテーションとは	2-3 やんばる全体編と各村編について
	2-2 目的と大切にしたいこと	2-4 全体計画のつくりかた
3	ストーリーブックの活用方法	09
	3-1 こんな方にとってほしい	
	3-2 こんな場面で使ってほしい	
	3-3 やんばると深くつながるための問いかけ	
4	やんばるエリアマップ	13
	4-1 やんばるエリアマップ	
5	やんばるインタープリテーションのキーワード	15
	5-1 自然のキーワード	
	5-2 暮らしと文化のキーワード	
6	やんばるともつとつながるストーリー	18
	6-1 2億年の記憶が森を育てている	6-7 やんばるの土地に根付く食文化
	6-2 多くの生き物たちが今も息づく	6-8 やんばるの暮らしに息づく文化
	6-3 人々の命を潤す生命と森	6-9 やんばるの自然との共生
	6-4 やんばるの海辺の多様性	6-10 地域がつなぐ共同売店
	6-5 やんばる森の静寂と満天の星	6-11 健康長寿のつながりの文化
	6-6 折りの文化と暮らしの息吹	6-12 ゆいまーるの人々の絆
7	やんばるで体験してほしい18のこと	31
	7-1 やんばるで体験してほしい18のこと(1~9)	
	7-2 やんばるで体験してほしい18のこと(10~18)	
8	やんばるともつとつながる体験例	34
	8-1 森と水にふれる体験	8-4 手仕事とものづくりの体験
	8-2 海と沿岸のひろがりを感じる体験	8-5 食と農・水産の体験
	8-3 集落の暮らしと文化、歴史にふれる体験	8-6 長期滞在・リトリート・学びの体験
9	よくある質問	42
	9-1 自然・生き物／国立公園・世界自然遺産・自然環境の保全	
	9-2 体験・観光	
	9-3 暮らし・文化／アクセス・マナー／季節	
10	代表的なインタープリテーションメディア、プログラム	46
	10-1 事前情報(旅マエ)	
	10-2 現地情報(旅ナカ)	
	10-3 事後情報(旅アト)	
	あとがき	50

1

はじめに



1-1 はじめに まえがき

やんばるの魅力、大事なこと
伝えたいことってなんですか？

そんなふうに聞かれたら
あなたは何を話したいですか。
どんなふうに伝えましょうか。

朝の森の匂い、集落の音、潮の満ち引き
森と水と海

ここだけにしかない生き物
集落の暮らしと文化
静謐^{せいひつ}な祈りの場

ゆったりと流れる時間
農産物や水産物と野山の恵み
中南部との関係が織りなす歴史。

もっと個人的な体験も含め
語りたいことがたくさんあることと思います。

やんばるは、
語るべきたくさんストーリーがある
豊かな地域。
他にはない特別な場所に違いありません。

1-2 はじめに メッセージ

『やんばるインタープリテーション全体計画』は、皆さんがこの地域の魅力を伝えるときに、役立てていただきたい「やんばるのストーリーブック」です。

本書は、やんばる地域の住民の皆さん、ネイチャーガイド、観光事業者、行政職員、専門家といった方々とワークショップを重ね、やんばるの自然・文化・歴史・体験・人の魅力を整理し、やんばるを訪れる人に「何を伝えたいか」の芯を短いストーリー文と解説文にまとめました。また「どんな体験をしてほしいか」を伝えるヒントやよく聞かれそうな質問と回答例なども作りました。

やんばる3村全体の魅力に加え、3村それぞれの個性と魅力も伝えられるよう、国頭村、大宜味村、東村の各エリア編も作りました。(やんばるは沖縄島北部一帯を指す言葉ですが、本書ではその中でも国立公園や世界自然遺産を擁する国頭・大宜味・東村の3村を対象にしています。)

このストーリーブックを手にしたら、まず身近な一つの場所を誰かに語ってみてください。そして本書を共通のストーリーブックとしてメッセージブックとして、活用していただき、やんばるを訪れる人とも、やんばるに暮らす人とも、ますます深くやんばるを共有できることを願っています。

未 森
来 と
へ 人
つ
な
ぐ
物
語



2

インタープリテーションの目的

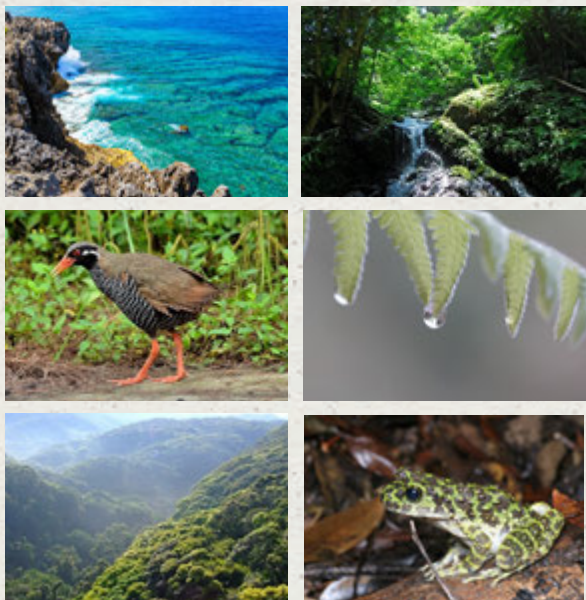


2-1

インタープリテーションの目的

インタープリテーションとは

インタープリテーションとは、自然・歴史・文化・暮らしなど、その地域が本来もつ“意味”や“価値”を来訪者と共有し、理解を深めるためのコミュニケーション手法です。インタープリテーションは単に情報を伝えるのではなく、そこに含まれるストーリーを浮かび上がらせ、それを体験を通して感じ取ることで、来訪者に共感や驚きを与え、来訪者自身の価値観や経験と結びつけられるように導くことを目指します。インタープリテーションは観光・環境保全・教育・地域づくりなど幅広い場面で活用でき、地域の魅力をより深く伝えるための“体験のデザイン”ともいえる手法です。

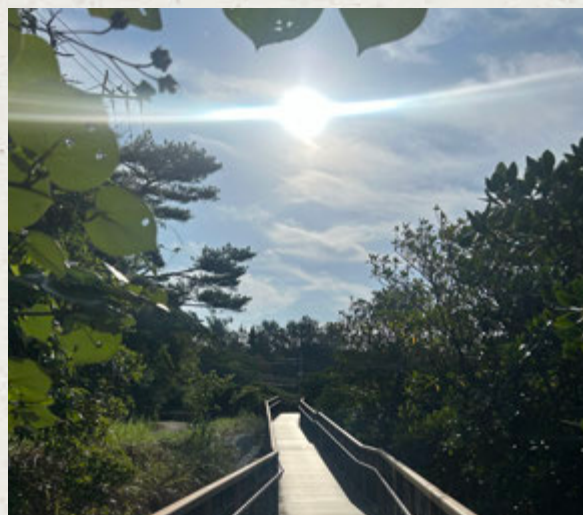


インタープリテーション 全体計画

インタープリテーションは、ガイドプログラムはもちろん、案内板や掲示物、配布物、インターネットに載せる情報やお土産物など、様々な媒体に関係します。それらを作る際に、軸となるテーマやストーリーを整理し、何をどのように伝えるのかを包括的にまとめた“伝え方の設計図”がインタープリテーション全体計画です。

全体計画の活用と更新

全体計画によって、対象地域の行政、観光事業者、地域住民など多様な主体が共通の視点を持って地域の価値を伝え、テーマやストーリーに基づく来訪者体験を提案できるようになります。さらに、全体計画を地域が自ら更新し育てていくことで、関係者それぞれの地域への理解がより深まっていきます。



2-2

インタープリテーションの目的

目的と大切にしたいこと

インタープリテーション全体計画による来訪者体験の提供は、来訪者の満足度を高めつつ地域への理解を深め、観光を含めた地域の活性化と、地域の歴史・生活文化や自然環境の維持・保全との両立につながります。やんばる国立公園インタープリテーション全体計画では、以下のような視点を特に大切にしました。



POINT 01

やんばるの魅力をもっと多くの人に伝え、 やんばるをもっと楽しんでもらう

- ☑ 短くまとめたストーリー文と解説文を軸に、やんばる3村の環境、自然、文化、歴史、人などの魅力の伝え方を整理しています。
- ☑ やんばるを訪れる人にどんな体験をしてほしいかを事例で示しています。



POINT 02

地域の皆さんの参画のもとで作り、 育てていく

- ☑ ワークショップを通して地域の皆さんのやんばるに対する思いや、やんばるならではの多様な魅力をたくさん教えていただき、ストーリーに反映しています。
- ☑ 来訪者に伝えることに加えて、地域の人々の間で伝えたり、移住を希望する人に伝えたりといった地域内のコミュニケーションツールとしての活用も想定しています。



POINT 03

誰もが見やすく、わかりやすく

- ☑ やんばるの物語を綴ったメッセージブックをイメージし、たとえば国立公園や世界自然遺産の伝え方は事実在即しつつも、学術的によりすぎないように配慮しています。
- ☑ インタープリテーション全体計画は作ってからがスタートです。更新を重ねながらみんなを使い倒していきましょう！
- ☑ 地域のみなさんが伝える人=インタープリターとなり、自信を持ってやんばるの魅力を伝えられるためのツールづくりを目指していきます。

2-3 インタープリテーションの目的 やんばる全体編と各村編について

やんばる国立公園インタープリテーション全体計画は、やんばる全体編（本稿）と、国頭村編、大宜味村編、東村編から構成しています。



やんばる国立公園インタープリテーション全体計画 (やんばる全体編)

人と自然がつなぐやんばる未来日記

やんばる3村全域に共通する自然・文化・歴史の価値・魅力を集めたストーリーブックです。



国頭村編

見上げれば神宿る山麓に息づく辺戸の暮らし

辺戸周辺エリアの魅力、特に琉球創世神話につながる祈りの文化と歴史を深掘りできるストーリーブックです。



大宜味村編

おばーとおじーのしま語り

大兼久集落の魅力、特に人のつながりの生き生きとした豊かさを味わうことができるストーリーブックです。



東村編

今日もアガリティーダ日和 ～東村のあたりまえが宝物～

東村の魅力、特に人の暮らし、産業の歴史が自然とともにあることを感じられるストーリーブックです。

各編の最新版はコチラより
ダウンロードできます。



2-4 やんばるインタープリテーションの目的 全体計画のつくりかた

やんばる全体編、各村編ともに公開ワークショップを開催し、ワークショップによる意見交換を大切にしながら日本インタープリテーション協会の監修のもと作成しました。

各村編は、ワークショップに加え、各エリアの住民、観光協会、事業者、行政職員の方々が参画した「地域チーム」を中心に話し合いや意見交換を重ねました。



ワークショップ

合計12回(全体3回、各村3回)のワークショップを行い、地域の魅力や大切にしたいことなどを教えていただきました。



地域チーム会議

各村別編は地域チームのメンバーが何度も打合せを行い、各地域での活用を見すえて作成しました。



地域との交流を通じた対話

地域の方々との交流を通じて、集落に伝わる文化や生活の知恵を伺い、やんばるの暮らしのなりたちを学びました。



フィールドワーク

各村別編の重要な資源についてはフィールドワークを行い現場や地域資源を確認し、地域チームで共有しました。

3

ストーリーブックの活用方法



3-1

ストーリーブックの活用方法

こんな方に使ってほしい

本書は、やんばるの自然や暮らしの魅力を整理して伝えるための「共通のストーリーブック」です。読むだけの冊子として置いておくのではなく、日々の仕事や地域の活動のなかで、さまざまな立場の方が活用してくださることを想定しています。

やんばるを訪れる方だけでなく、やんばるに暮らす方にも広く使っていただきたいと考えています。



来訪者の方に

観光やレジャー、研修などでやんばるを訪れる県外の方に対して、やんばるの自然や文化、暮らしの背景を分かりやすく伝えるために活用できます。ガイドツアーの事前説明や、ビジター施設・宿泊施設での情報提供の際に、本書のストーリーを使って「やんばる全体のなかで、今いる場所がどのような意味を持つのか」を共有していただけます。



沖縄県民の方に

県内から訪れる方にとっては、やんばるは「特別な遠出先」であると同時に、同じ沖縄のなかの大切な一地域でもあります。本書を通じて、国立公園・世界自然遺産としての価値だけでなく、島全体の歴史や島の暮らしとのつながりも伝えることで、「沖縄のなかのやんばる」という視点で理解を深めていただけます。



移住を考えている方に

やんばるへの移住や二拠点生活を検討している方に対して、暮らしや仕事、地域コミュニティの雰囲気を知ってもらう手がかりとして活用できます。本書を読みながら、「自分がここでどのように暮らしていきたいか」をイメージしてもらうことで、移住相談や住まい探しの場面での対話も深まりやすくなります。



地域の中で暮らす方に

やんばるの各集落に暮らす方々にとっても「自分たちの地域を見つめ直す鏡」として活用できます。「自分たちが大事にしてきたこと」「これから残していきたいこと」を話し合うきっかけとして使っていただけます。地域の中で共通の言葉を持つことで、来訪者を迎えるときの紹介や、お互いの理解も深まりやすくなります。

3-2 ストーリーブックの活用方法

こんな場面で使ってほしい

本書は、特定の分野に限らず、やんばるに関わるさまざまな場面で活用していただけます。ストーリーを手がかりに、やんばるを訪れる人と、やんばるに暮らす人との対話がさらに豊かになっていくことを願っています。

活用方法 01

ガイドプログラムでの活用



- ・ツアーの導入、解説、ふりかえりの場面で
- ・プログラム作成のベースとして

活用方法 02

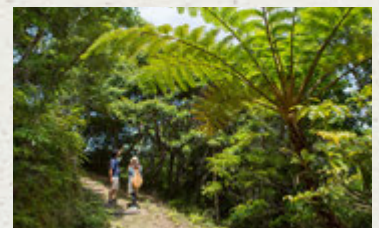
観光協会・観光案内所で



- ・おすすめスポットや体験を紹介する際に
- ・職員が共通のストーリーを共有できる

活用方法 03

観光・自然体験施設で



- ・展示構成作りのベースに
- ・説明時の「話のネタ帳」として

活用方法 04

飲食・宿泊・交通の場で



- ・ツアーの導入、解説、ふりかえりの場面で
- ・プログラム作成のベースとして

活用方法 05

地域産品・おみやげの販売で



- ・ポップ文章を書くときの参考に
- ・「やんばるらしい商品」を伝えられる

活用方法 06

行政の窓口や事業の場面で



- ・価値や目指す方向性を伝える際に
- ・政策や事業の共通土台として

活用方法 07

情報発信・メディア対応で



- ・発信する情報の参考に
- ・伝えたい芯の部分をぶれずに発信できる

地域ならではの使いかた

来訪者との対話だけでなく、地域のなかでも様々な場面で活用していただけます。

- 共同売店で 店内に置いて会話のきっかけに
- 学校や学びの場で 学習の教材として
- 福祉施設で 読みながら思い出語り
- おうちで 家族で開いて語り合う
- 集落で 集落のなりたちや将来を語るときに

3-3

ストーリーブックの活用方法

やんばると深くつながるための問いかけ

(エッセンシャル クエスチョン)

本書は、特定の分野に限らず、やんばるに関わるさまざまな場面で活用していただけます。ストーリーを手がかりに、やんばるを訪れる人と、やんばるに暮らす人との対話がさらに豊かになっていくことを願っています。

Q1 ファミリー層(子ども連れ)の方への問いかけ

親子が自然と触れ合い、次世代への価値継承を考えるための問い。

- ① 子どもたちが将来も安全に森と川で遊べるために、今どのような自然を残すべきでしょうか。
- ② 家族で過ごすひとときは、やんばるの自然をどのような思い出として刻むでしょう。
- ③ 親子で共に自然と向き合う体験は、どのような“気づき”をもたらすでしょう。

Q2 自然志向のエコツーリストの方への問いかけ

生態系・希少種・自然景観を深く味わう来訪者のための問い。

- ① 森・川・海が連続するこの環境は、どのような生物の物語を支えているでしょうか。
- ② 希少種が生き続けるために、私たちはどのような自然との距離と関わり方をすべきでしょうか。
- ③ やんばるとの持続的な関係を築くために、今回の訪問からどのようなアクションが考えられますか。

Q3 文化・暮らしに関心をもつ方への問いかけ

自然と生活文化が交わる「やんばるの暮らし」の価値に触れるための問い。

- ① やんばるの暮らしは、森や海とどのように結びつき、どのような知恵を育んできたでしょう。
- ② 集落で受け継がれてきた営みは、いまの社会にどのような学びがあるでしょうか。
- ③ 地域の暮らしを尊重しながら旅をするとは、どのような姿勢・関わりが求められるでしょうか。

Q4 修学旅行・教育旅行の方への問いかけ

持続可能な社会と自らの役割を学ぶための問い。

- ① やんばるの自然を守ることは、社会の未来とどのように結びついていますか。
- ② 自分たちの生活と、やんばるの森・川・海はどの地点でつながっていますか。
- ③ この場所から学んだ“守るべき価値”を、自分たちの行動へどうつなげることができるでしょうか。

Q5 海外から来訪された方への問いかけ

“世界の中のやんばる”としての認識を深めるための問い。

- ① 世界の国立公園と比較したとき、やんばるはどのような独自性と価値をもっているでしょうか。
- ② この島の森に息づく生物多様性は、地球規模の環境課題とどう響き合っているでしょうか。
- ③ 来訪者として、この場所の未来にどのように貢献できるでしょうか。

4

やんばるエリアマップ



4-1 やんばるエリアマップ

やんばるエリアマップ

やんばる3村は、沖縄島（沖縄本島）の北部に位置し、最も北が国頭村、南西側が大宜味村、南東側が東村です。面積は3村合わせておよそ340km²、43の字区に、合わせて1万人あまりの人々が暮らしています。面積では沖縄県の15%を占めますが、人口に占める割合は1%未満です。

3村にまたがって南北に広がる脊梁山脈を中心に森林の割合が高く、豊かな亜熱帯の森林が広がっており、陸地のおよそ50%が「やんばる国立公園」に指定されています。また、脊梁山脈は固有性の高い生態系と生物多様性が評価され、2021年に世界自然遺産地域になりました。

辺戸岬
観光案内所



5

やんばる
インタープリテーションの
キーワード



5-1

やんばるインタープリテーションのキーワード

自然のキーワード

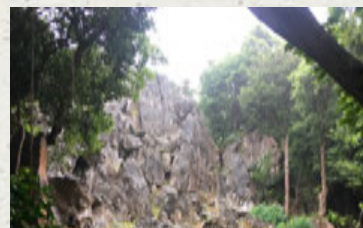
森・川・海がつながる亜熱帯の生態系、固有種を育んだ長い隔離の歴史を中心としたやんばるの自然に関する代表的なキーワードです。これらは単なる風景の紹介ではなく、「なぜここが特別なのか」を考えるための手がかりです。



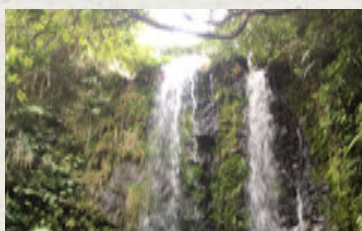
森と山並み



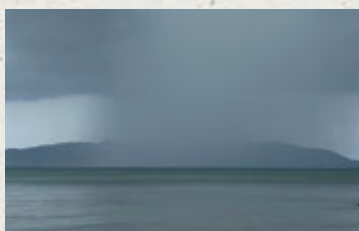
切り立った断崖



カルスト地形



川と滝



カタブイ(にわか雨)



マングローブ林



入江と干潟



サンゴ礁の海



満天の星



固有の生き物



希少な野生動植物



世界自然遺産

5-2 やんばるインタープリテーションのキーワード 暮らしと文化のキーワード

やんばるの暮らしは、森と海に抱かれた集落の中で育まれてきました。御嶽(ウタキ)や祭祀、産業と暮らしの営みには、自然への感謝と人のつながりが息づいています。特別な観光資源ではなく、日々の「あたりまえ」に流れる時間にこそ、やんばるの文化の価値があります。



集落景観



御嶽(ウタキ)



祭祀



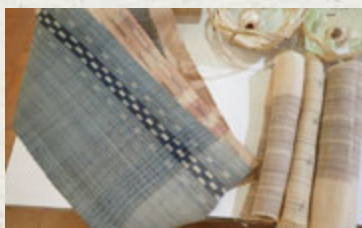
共同売店



ゆんたく



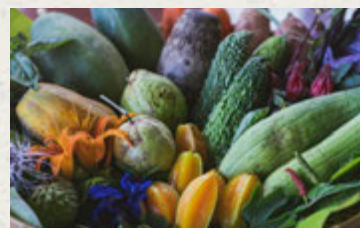
ゆいまーる



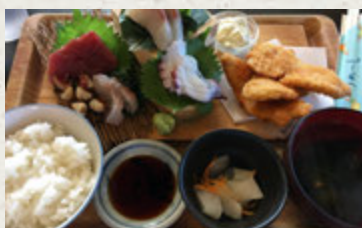
芭蕉布



手仕事の工房



島野菜



海の幸



島酒(泡盛)



特産の農産物

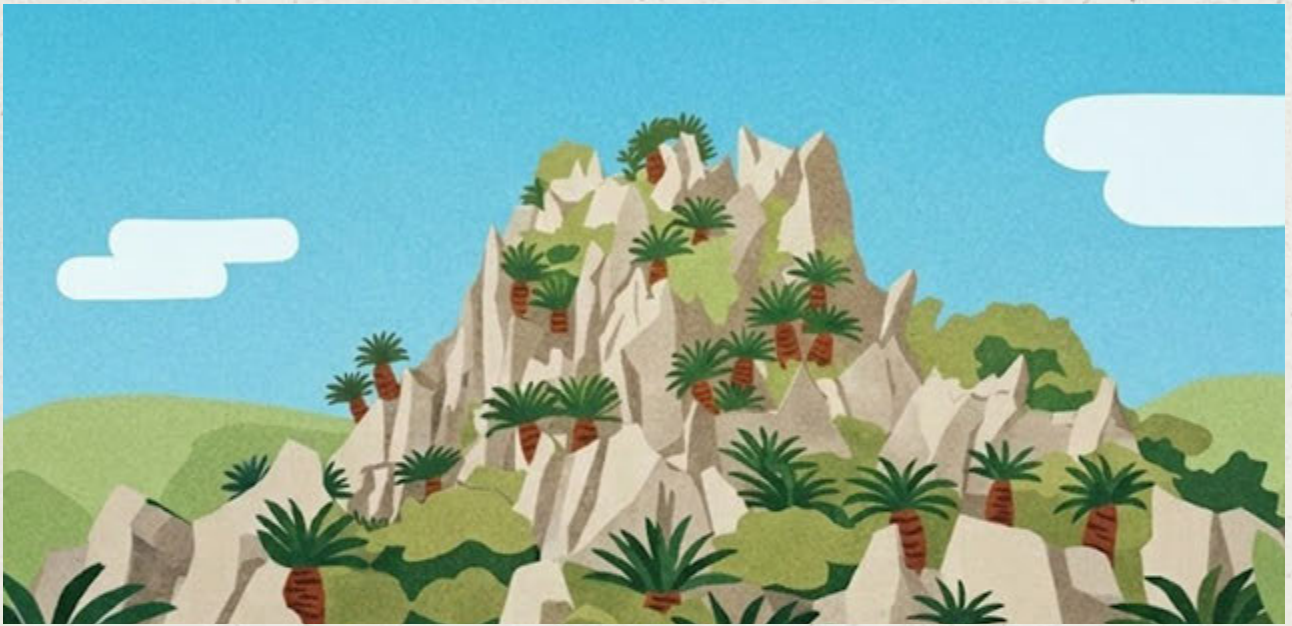
6

やんばるともっと
つながるストーリー



6-1 2億年の記憶が森を育てている

2億年から数千万年もの昔に深い海で形作られた地盤が永い時を経て地上に現れ、やんばるの豊かな森を育てている。



やんばるの山々をつくる地盤は大きく2種類ある。

ひとつは主に砂岩と千枚岩からなる地盤で、やんばるを南北に貫くならかな脊梁山地などの大半を占めている。もうひとつは約2億年前もの太古の石灰岩で、辺戸岬やネクマチヂ岳～塩屋富士周辺で見られ、切り立ったカルスト地形がとても目立つ。

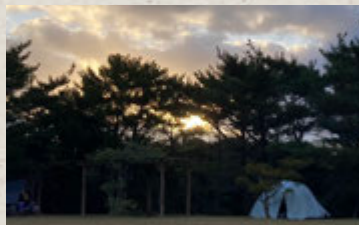
どちらも深い海の底にあったものが、プレートの沈み込みによって押し上げられて永い時を経て地上に現れた。そんな大地がいまでは豊かな森を育てている。

辺戸岬



沖縄本島最北端の辺戸岬では、深海で形成され隆起した石灰岩の地形や、安須森(アスムイ)の山並みを眺めることができます。

国頭村森林公園



イタジイの森の林間遊歩道を散策し、展望台からは山を覆う豊かな森の姿を眺めることができます。

ネクマチヂ岳



大宜味村のネクマチヂ岳では、切り立った石灰岩のカルスト地形の山容を登山道から間近に見ることができます。

各村のつながるストーリー

・辺戸ストーリーブック:4-1「石灰岩の地層」

6-2 多くの生き物たちが今も息づく

琉球列島の中でも古くに大陸から隔離されたやんばるには、ここにしかない多くの生き物たちが今も息づいている。

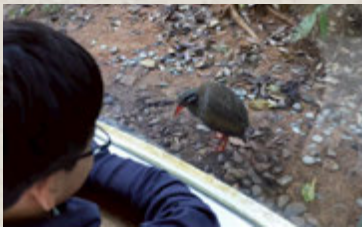


やんばるは、琉球列島の中でも最も古くに大陸から切り離された、琉球列島中央部の島々（中琉球）のひとつである。

長い隔離の時間の中で生き物たちは独自の進化を遂げ、琉球列島、とりわけ中琉球でしか見られない固有種は枚挙にいとまがない。ハブだって中琉球の固有種だ。さらに、ヤンバルクイナやノグチゲラ、オキナワイシカワガエルなど、やんばるにしか生息しない「やんばるの固有種」も多い。

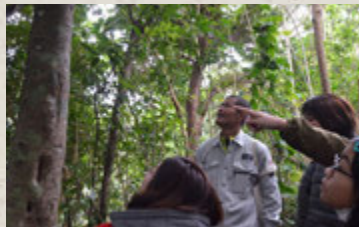
深い森から響く鳴き声や、木々の間に垣間見える命の姿は、数百万年に及ぶ自然の営みの証である。

ヤンバルクイナ生態展示施設



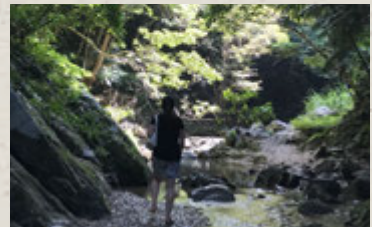
やんばるにしか生息しないヤンバルクイナの姿や生態を間近に見ることができます。

ネイチャーガイド



やんばる各地のガイドツアーでは、森を歩きながら、やんばる特有の生き物や植物をフィールドで観察できます。

徒歩での散歩



森の音や気配から、生き物の存在を感じ取ることができます。生き物と出会うには雨上がりがおすすめです。

各村のつながるストーリー

- ・辺戸ストーリーブック：4-2「森と生物」
- ・東村ストーリーブック：04「暮らしのそばの自然」
- ・東村ストーリーブック：「自然のキーワード」

6-3 人々の命を潤す生命と森

やんばるの豊かな雨と森に立ちこめる朝霧は森を潤し、生命を育み、島の水がめとして人々の命を潤している。

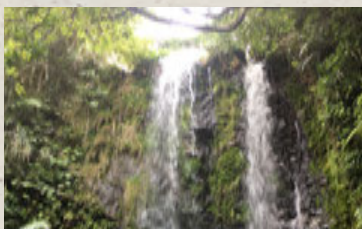


やんばるは、沖縄島の中でも山がちで、降水量が多い。森に立ちこめる朝霧、山の斜面を駆け抜けるカタブイ（にわか雨）、そして森を揺らす台風—それらはすべて、恵みの水をもたらす自然の働きである。

雨や霧は森を潤し、多くの希少種を含む動物や植物を生かし、生物多様性を豊かにしている。川や滝は、人々の暮らしや信仰のよりどころとなっている。

やんばるの水は、いくつものダムによって、沖縄島中南部の人々の生活をも支えている。森の水はやがて海へと流れだす。黒潮の流れる温かい海から生じた水蒸気は、風によってやんばるの山々に雲をなし、また森に雨や霧をもたらしてくれる。

川と滝



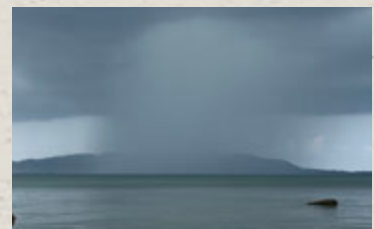
森の奥に流れる滝や川で、豊かな水量と清流が森を支えているようすを見ることができます。

6つのダム



やんばるが沖縄島の暮らしを支える水がめであることを知ることができます。カヤックツアーも行われています。

カタブイ（にわか雨）



山と海が近いやんばる特有のにわか雨に出会い、雨の多い気候を体感できます。

各村のつながるストーリー

・大兼久ストーリーブック:1「自然に抱かれた大兼久」 ・東村ストーリーブック:04「暮らしのそばの自然」

6-4 やんばるの海辺の多様性

入江や断崖、サンゴ礁やマングローブ林のつながりは、やんばるの海辺の多様性を描く絵巻物である。



やんばるの海沿いを巡ると、この地域ならではの沿岸のさまざまな風景が現れる。

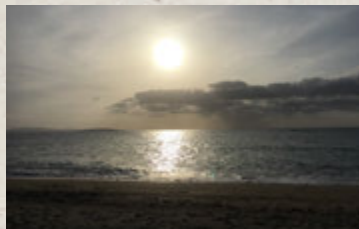
塩屋湾の穏やかな入江と干潟に迎えられ、西海岸には国道58号線間近にサンゴ礁の海岸線が迫る。辺戸岬から東海岸へかけては断崖が連なり、力強い海の姿が際立つ。東海岸を南下すると、ゆったりと広がる河口のマングローブ林に迎えられる。東海岸では朝日が眩しく、西海岸では夕日が雄大だ。多彩な海を味わえるのもやんばるの大きな魅力である。

やんばる沿岸を一周



沿岸を巡り、断崖や入江、干潟など多様な海辺の景観を見比べることができます。

静かな海岸



サンゴに守られた波の穏やかな浜辺で、静かな海の表情を感じることができます。

マングローブ林



東村の河口付近に広がるマングローブ林で、森と海がつながる環境を観察できます。

各村のつながるストーリー

・大兼久ストーリーブック:1「自然に抱かれた大兼久」 ・東村ストーリーブック:04「暮らしのそばの自然」

6-5 やんばる森の静寂と満天の星

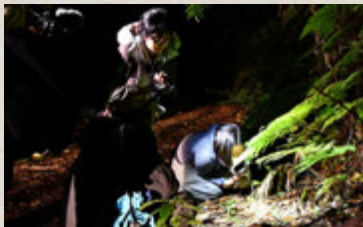
森から響く生き物たちの声、静かに寄せる波音、横切る満天の星が、やんばるの闇夜をやさしく覆い包んでいる。



やんばるの夜は、人工の光が少なく、あたりまえの暗さが生きている。その闇の中で、森からは虫や鳥、カエルたちの声が響き、海辺では穏やかな波音が耳に届く。見上げれば、天の川がくっきりと夜空を横切り、無数の星が瞬いている。

夜の深さの中で、やんばるの自然は人との距離を縮めてくれる。

ナイトツアー



夜の森で、昼間とは異なる生き物の声や闇の深さ、美しい星空を体感できます。

宿泊



集落に宿泊し、夕暮れの海の変化や夜の静けさをじっくり味わうことができます。

夜空を見上げる



集落内でも満天の星や天の川をはっきりと見ることができます。

各村のつながるストーリー

東村ストーリーブック:04「暮らしのそばの自然」

6-6 祈りの文化と暮らしの息吹

やんばるの集落には自然と共に生きる知恵と祈りの文化が受け継がれ、今も暮らしに深く強く息づいている。



やんばるの人々は、森と海に囲まれた集落に守られて生まれ、育ち、未来を紡いできた。セメント瓦・赤瓦の屋根や石垣は、強い日差しや台風から家を守る。フクギ並木は風をやわらげ、集落を包み込む。山と海からの恵みに感謝する祈り（ウガン）の文化もまた、やんばるの暮らしに根付いている。

シヌグや海神祭（ウンジャミ・ウンガミ）などの祭祀、集落で静かに大切にされている御嶽（ウタキ）や拝所（ウガンジュ）などに、自然への感謝と畏敬の念が表れている。

祭祀



地域で受け継がれてきた祭りで、自然への感謝や祈りの文化を感じられます。

御嶽（ウタキ）



ガイドと共に御嶽を訪れ、自然を敬う場として大切にされてきた空間を知ります。

集落散策



石垣や屋敷林に囲まれた集落を歩き、暮らしと自然の近さを感じ取れます。

各村のつながるストーリー

- ・辺戸ストーリーブック：4-3「神話の地」
- ・辺戸ストーリーブック：4-5「暮らしのための祈り」
- ・大兼久ストーリーブック：1「自然に抱かれた大兼久」

6-7 やんばるの土地に根付く食文化

やんばるの食文化は、土地に根づく食材と特産の果実の味わいに、新たな農水産業の歩みが重なって形づくられている。

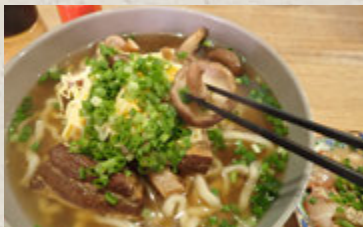


やんばるの食文化は、この地で育まれてきた多様な食材に支えられている。島野菜や野草、地先の海の幸をふんだんに使った家庭料理には、食材を活用する知恵が詰まっている。シークワサー、パイナップル*、マンゴーなどの特産果実の旬の味わいは格別だ。気候を活かした多様な柑橘やカラギ茶、コーヒーなどにも個性が宿る。

こうした味わいは、自然の恵みを大切にしてきた人々の暮らしそのものを映し出し、訪れる人にもやんばるの食と農水産業の豊かさを伝えてくれる。

※東村では「パイナップル」とするのがこだわり

食堂



島野菜を大切に使った料理や豪快なチャンプルーなど、地域の多様な味わいがあります。

道の駅



特産品や旬の食材を通して、地域の農業や水産業の広がりを知ることができます。

海の幸



漁港や食卓で、新鮮な魚介類と人々の暮らしの関係を感じ取れます。国頭村宜名真で「フー(富)ヌ(の)イユ(魚)」と呼ばれるシイラを天日干している様子です。

各村のつながるストーリー

・辺戸ストーリーブック:4-7「自然に抱かれた暮らし」 ・大兼久ストーリーブック:2「暮らしを豊かにした漁業」

6-8 やんばるの暮らしに息づく文化

やんばるの手仕事は風土に根ざした自然素材を巧みに生かし、暮らしに息づく文化として人々の心を結んでいる。



やんばるの手仕事には、土地の自然とともに生きてきた人々の知恵と祈りが宿っている。

たとえば島の風を受けた糸芭蕉の繊維を手で績み、染め、織り上げてつくられた芭蕉布は、まさに自然の恵みと人の技の結晶だ。やんばるで出会う草玩具や、藍染めをはじめとする染め物、森の恵みを活かした木工品などもまた、身近な素材を巧みに、大切に用いて作られている。

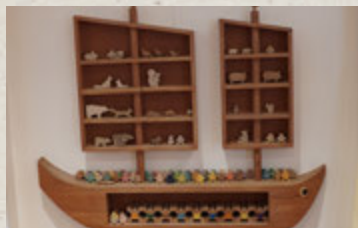
自然の恵みを無駄にせず生かしてきた営みが、手仕事を通して今に伝わり、地域の魅力を静かに支えている。

芭蕉布会館



自然素材から生まれる芭蕉布を通して、土地に根ざした手仕事の技を学べます。

やんばる森のおもちゃ美術館



木のぬくもりを生かした遊具や展示から、森の恵みの使い方を知ることができます。

工房めぐり



豊かな自然環境を活かした各地域の工房や店舗を訪ね、自然素材を生かしたもののづくりに触れられます。

各村のつながるストーリー

- ・辺戸ストーリーブック:4-7「自然に抱かれた暮らし」
- ・東村ストーリーブック:03「野山の恵み」
- ・大兼久ストーリーブック:3「日々の暮らし」

6-9 やんばるの自然との共生

やんばるの森には木材を求めた往来の歴史が今も息づき、自然を賢く使いながら守る文化が伝わっている。



かつてやんばるの集落周辺には段々畑や薪炭林が広がり、森は生活に欠かせない資源として盛んに利用されていた。やんばるの森のほとんどは、人の手が入った二次林だ。

山中には、猪から畑を守るための猪垣や炭焼き窯の跡など、先人の営みを物語る遺構が今もひっそりと眠っている。琉球王国時代から、中南部への木材の供給地として林業も盛んであり、今でも国立公園や世界遺産地域と共存するかたちで続いている。

自然を守りながら賢く活かす知恵と精神は、森とともに受け継がれてきた大切な文化であり、やんばるの森を特徴づける一面である。

山と水の生活博物館



展示を通して、森と水を活かしてきた人々の暮らしの歴史を学べます。

猪垣



森の中に残る石積みから、猪などの獣害と向き合ってきた先人の工夫を知ることができます。

炭焼き跡



炭焼きや薪(タムン)獲りの歴史から、人と森林の繋がりに想いを馳せることができます。

各村のつながるストーリー

・辺戸ストーリーブック：4-7「自然に抱かれた暮らし」 ・東村ストーリーブック：03「野山の恵み」

6-10 地域がつなぐ共同売店

共同売店は、かつてやんばるの暮らしの拠点であり、今も地域の人々をつなぎ、旅人ともつなぐ温もりの拠点である。



共同売店は、誰もが立ち寄って食品や日用品の買い物とゆんたくを楽しめる、人と人をつなぐ温かな空間。集落の住民と住民を、旅行者と住民を、土の人と風の人をつなぎ、やんばるの暮らしや旅に温もりを与えてくれる。

また、共同売店は沖縄や奄美の各地で見られるが、100年以上の歴史をもち、やんばるに発祥した。

山原船などによる都市との交易や日用品の調達など集落のあらゆる営みにおいて、共同売店を拠点として、住民たち自身が生活を守ってきた。

共同売店は、人と人をつなぐ、昔と今をつなぐ、かけがえのないやんばるの遺産である。

各村のつながるストーリー

・辺戸ストーリーブック:4-7「自然に抱かれた暮らし」 ・大兼久ストーリーブック:3「日々の暮らし」

6-11 健康長寿のつながりの文化

やんばるの健康長寿は、昔ながらの食卓と生涯現役の暮らし、集落での人々のつながりに支えられている。



やんばるの健康長寿は、集落での暮らしの積み重ねに支えられてきた。

島野菜や豆類、果実を多く取り入れ、塩分を控えつつ豚肉などのたんぱく質を摂る、栄養バランスの良い食生活が長寿を支えている。畑仕事や手仕事、地域行事に参加しつづける生涯現役の暮らしや、ゆったりと泡盛を交わすゆんたくの時間も大切だ。

このような自然とともに生き、人と人とのつながりを大切にする暮らしは、世界で健康長寿の地域とされる「ブルーゾーン」に通じる。集落を守り、集落に守られる暮らしが、おじい、おばあ笑顔と健康を育んでいる。

食体験



島野菜や伝統的な料理を味わい、日々の食と健康の関係を知ります。

集落散策



集落を歩き、高齢の方々も元気に暮らす生活環境を感じることができます。

泡盛



地域で親しまれてきた泡盛文化に触れ、ゆったりと心をほぐす時間を感じられます。

各村のつながるストーリー

・大兼久ストーリーブック：4「長寿の村」

6-12 やんばるともつとつながるストーリー ゆいまーるの人々の絆

農作業などの労働をお互いに助け合う「ゆいまーる」は、集落の暮らしを支え、今も人々の絆としてその精神が息づいている。



やんばるの集落では、稲刈りやきび刈り、家の建て替えなど、暮らしの節目ごとに互いに助け合う「ゆいまーる」の精神が根づいていた。労働を分かち合い、収穫の恵みを持ち寄って食卓を囲むことで、人々は喜びと感謝を共有してきた。

この助け合いの心は現代でも祭りや地域活動をはじめ生活のさまざまな場面に息づき、やんばるの暮らしを支えるあたたかな絆として受け継がれている。

農家民泊



島野菜や伝統的な料理を味わい、日々の食と健康の関係を知ります。

大宜味村農村活性化センター



地域活動の拠点を訪れ、共同作業や交流の場を知ることができます。

共同売店でのゆんたく



日常の会話に触れ、人と人が支え合う関係性を感じ取れます。

各村のつながるストーリー

・大兼久ストーリーブック:03「日々の暮らし」 ・東村ストーリーブック:05「暮らしやすさが宝」

7

やんばるで体験してほしい
18のこと



7-1

やんばるで体験してほしい18のこと

やんばるで体験してほしい18のこと(1~9)

1

ビジターセンターや観光案内所で、やんばるの魅力を教えてもらう
来訪者を迎えるやんばるの人々と出会い、語り合ってもらいたい。

2

ガイドプログラムに参加し、ガイドとともにやんばるの森を歩く
森のなりたちや生き物、暮らしとのつながりを、対話を通して感じてほしい。

3

森の中で立ち止まり、音や匂い、風、湿度など五感で自然を味わう
身体感覚として、五感を使ってやんばるを受け取ってもらいたい。

4

川や滝、水源の風景にふれ、水が育む森と暮らしを実感する
やんばるが「沖縄島の水がめ」であることを実感してほしい。

5

森・川・海がつながっている風景を、移動しながら体感する
一つの場所だけでなく、連なりとしての自然を感じてほしい。

6

海辺や入江に立ち、やんばるの多様な海の表情を眺める
断崖、干潟、サンゴ礁、マングローブの違いを味わってもらいたい。

7

夜のやんばるで、暗さや静けさ、星空を体験する
人工の光が少ない環境がもたらす自然のリズムにふれてほしい。

8

集落を歩き、人の暮らしと自然が近い距離にあることを感じる
フクギ並木や季節で変わる鳥の声や虫の声など、自然の中に「生活」があること
に気づいてほしい。

9

御嶽や拝所を前に、自然と祈りの関係に思いを巡らせる
立ち入らずとも、場の意味を知り、敬意をもって向き合ってもらいたい。

7-2 やんばるで体験してほしい18のこと (10~18)

10 地域の小さなミュージアムや展示施設、ビジターセンターを訪ねる
自然・歴史・暮らしを、地域の視点で学んでほしい。

11 手仕事や工芸にふれ、自然素材と人の技の関係を知る
暮らしに根ざしたものづくりの価値を感じてほしい。

12 地元の食材や料理を味わい、土地の恵みを実感する
島野菜や果実、海の幸が育まれてきた背景にも目を向けてほしい。

13 道の駅や共同売店で、果物や茶などの地域産品を試してみる
やんばるの気候と農の多様性を、味覚から知ってほしい。

14 地域の人から昔の暮らしや体験談を聞く時間をもつ
記録に残らない語りの中にある価値に耳を傾けてほしい。

15 雨や天気の変化を含めて、やんばるの自然を受け入れる
「予定通りでない時間」も、やんばるらしさとして味わってほしい。

16 自然を守るためのルールやマナーを理解し、実践する
利用する立場としての責任を、自分事として考えてほしい。(9-3 Q11 参照)

17 短い滞在でも、また戻ってきたい場所を一つ見つける
一度きりで終わらない関係を、心の中に残してほしい。

18 旅のあとも、やんばるのことを思い出し、誰かに語る
体験を持ち帰り、次のつながりへとつなげてほしい。

8

やんばるともっとつながる 体験例



8 やんばるともっとつながる体験例

ワークショップで出されたアイデアや、地域で実際に行われている取り組みをもとに整理した体験例です。

これらは「必ず用意されているメニュー」というわけではありません。地域の状況や季節、受け入れ側の体制に応じて組み合わせていただくためのヒントとしてお使い下さい。

実際の受け入れにあたっては、安全面や環境への配慮、地域のルールを最優先しつつ、地域の皆さまと相談しながら、無理のないかたちで実施していただきたいと考えています。



活用方法

来訪者を受け入れる方へ

「関連するストーリー」や「インタープリテーションプログラムの例」をプログラム作りやツアー造成のヒントとしてご活用下さい。



やんばるを訪れる方へ

ワークショップ参加者の声を集めた「おすすめの体験」は、やんばるならではの過ごし方のヒントとしてお使い下さい。「体験プログラムなどの情報」では代表的な既存のプログラムをご紹介します。観光情報が豊富な下記のサイトもご活用下さい。

環境省



やんばる国立公園
でなにしよう？

国頭村



KUNIGAMI Fun Trip

大宜味村



大宜味村観光協会

東村



ヤンバル
エクスペリエンス

やんばる3村



やんばる3村
観光ポータルサイト

8-1

やんばるともっとつながる体験例

森と水にふれる体験

関連するストーリー

- 6-1 2億年の記憶が森を育てている 6-2 多くの生き物たちが今も息づく 6-3 人々の命を潤す生命と森
6-4 やんばるの海辺の多様性 6-9 やんばるの自然との共生

インタープリテーションプログラムの例

例 01

森の小径を歩き、やんばるの水源を感じるハイキング

森の遊歩道や林道をゆっくり歩きながら、樹木や足もとの植物、湧水や谷川の流れをガイドの案内で味わう体験です。水がどこから生まれ、どのように集落や海へとつながっているのかを知ること、やんばるの森の役割を実感できます。

例 02

滝や川で楽しむプログラム

滝や川をフィールドに、足を水につけたり、泳いだり、浮かんだり、水辺の生きものを観察したりするプログラムです。暑い季節には涼をとりながら、子どもから大人まで一緒になって、水とともにある暮らしについて考える時間をつくります。

例 03

林道パトロールや保全活動への参加体験

森林管理や外来種対策など、自然環境保全活動の一部に参加していただく体験です。外来植物の草刈り、落ち枝の片づけや簡単なモニタリングなど、無理のない範囲で作業しながら、「守りながら使う森」の現場を知る機会となります。

おすすめの体験

石灰岩地形を見る / 雨が降っても傘をささない / ダム巡り / 本当の暗闇体験 / 流れ星を見る

体験プログラムなどの情報

○体験プログラム 01

やんばる学びの森 ガイドウォーク
(やんばる国立公園でなにして?)



○体験プログラム 01

ター滝フィールドセンター
(平南川ター滝公式サイト)



○体験プログラム 03

保全体験型ナイトツアー AKISAMIYO
(やんばる国立公園でなにして?)



8-2 やんばるともっとつながる体験例 海と沿岸のひろがりを感じる体験

関連するストーリー

6-3 人々の命を潤す生命と森 6-4 やんばるの海辺の多様性 6-6 祈りの文化と暮らしの息吹

インタープリテーションプログラムの例

例
01

サバニやカヤックで入江をめぐる水面散歩

サバニやカヤック、SUPなどで穏やかな湾内やマングローブ、入江を進み、海から集落や森を眺める体験です。サンゴ礁や干潟、マングローブなどの生態系の特徴を紹介します。

例
02

干潟・マングローブ観察と森から海へのつながり学習

干潮の時間に合わせて干潟やマングローブ林の遊歩道を歩き、カニや貝、魚などの生きものを観察します。上流の森で生まれた水が、川を通して海へと流れ込む過程をイメージしながら、森・川・海のつながりを体感していただきます。

例
03

海辺の集落を歩くフィールドワーク

港や海辺を歩きながら、かつての舟運や現在の漁業、祭りや行事との関わりを地域の方から聞く体験です。海沿いの生活のリズムや、海とともにある暮らしの知恵を知ること、海の景色がより立体的に見えてきます。

おすすめの体験

ハーリーやサバニを漕ぐ／星空のソムリエ／赤土流出防止活動／藻場の再生現場／漁業協同組合／陸からホエールウォッチング／静かな海岸でポーッとする／イノーの潮だまり／釣り／漁体験

体験プログラムなどの情報

○体験プログラム 01

慶佐次川マングローブカヌー体験
(ヤンバルエクスペリエンス)



○体験プログラム 01

HENTONA SABANI
(やんばる3村観光ポータル)



○体験プログラム 03

宇佐浜のイノー生物観察
(辺戸岬観光案内所)



8-3 やんばるともっとつながる体験例 集落の暮らしと文化、歴史にふれる体験

関連するストーリー

- 6-6 祈りの文化と暮らしの息吹 6-8 やんばるの暮らしに息づく文化 6-10 地域がつなぐ共同売店
6-11 健康長寿のつながりの文化 6-12 ゆいまーるの人々の絆

インタープリテーションプログラムの例

例
01

共同売店と集落をめぐる「日常のまち歩き」

共同売店や集落の小道を歩きながら、地域の方のお話をうかがうプログラムです。日々の買い物やゆんたくの場としての共同売店の役割や、昔から続く助け合いのしくみなどを知ることで、やんばるの暮らしの背景に触れていただきます。

例
02

御嶽や拝所を訪ねる「祈りの風景」体験

集落の御嶽や拝所、祭祀にまつわる場所を、地域の案内人とともに訪ねる体験です。無理に立ち入らず、地域のルールや心構えを学びながら、自然と祈りが結びついたやんばる独自の世界観を感じていただきます。

例
03

ゆんたくや民話を楽しむ「語りの夕べ」

民泊などで、地域の方を囲んでゆんたくを楽しみながら、昔話や生活の知恵、戦後の暮らしの変化などを聞く時間をつくります。お茶やお菓子をいただきながら、世代をこえた対話のなかで、やんばるの記憶にふれる体験となります。

おすすめの体験

豊年祭／海神祭／ウシデーク／シヌグ／若水の行事／アブシバレー／奥間の大綱引／模合／
売店前でおじいと飲む／ファーマーズマーケットや道の駅／宜名真の戻る道／高江展望台駐車場

体験プログラムなどの情報

○体験プログラム 01

くんじんの自然と歴史ぐるり旅
(辺戸岬観光案内所)



○体験プログラム 01

いぎみまるごと体験
(NPO法人おおぎみまるごとツーリズム協会)



○体験プログラム 03

東村立 山と水の生活博物館
(公式サイト)



8-4 やんばるともっとつながる体験例 手仕事とものづくりの体験

関連するストーリー

6-8 やんばるの暮らしに息づく文化

インタープリテーションプログラムの例

例
01

芭蕉布や織物・染め物の工房見学とミニ体験

共同売店や集落の小道を歩きながら、地域の方のお話をうかがうプログラムです。日々の買い物やゆんたくの場としての共同売店の役割や、昔から続く助け合いのしくみなどを知ることで、やんばるの暮らしの背景に触れていただきます。

例
02

森の恵みを使ったクラフトづくり

森で採集した木の実や枝、葉などを使って、小さな作品をつくる体験です。単なるお土産づくりではなく、「どの素材をどのくらい使うか」「採集のマナー」もあわせて学ぶことで、自然とともに暮らす視点を育てます。

例
03

伝統的な生活道具の手入れ・修理体験

農具や漁具、日用品など、地域で実際に使われてきた道具の手入れや簡単な修理を体験します。道具に刻まれた傷や使い込まれた痕跡から、暮らしの歴史や人々の工夫に思いをはせていただきます。

おすすめの体験

東村文化・スポーツ記念館(手工業品の展示販売)／植物と遊ぶ／紅型／木工／陶芸／
藍づくりと藍染め／工芸店

体験プログラムなどの情報

○体験プログラム 01

大宜味村立芭蕉布会館

(やんばる3村観光ポータルサイト)



○体験プログラム 01

やんばる森のおもちゃ美術館

(公式サイト)



○体験プログラム 03

喜如嘉翔学校

(喜如嘉翔学校webサイト)



8-5 やんばるともっとつながる体験例

食と農・水産の体験

関連するストーリー

6-7 やんばるの土地に根付く食文化

インタープリテーションプログラムの例

例
01

畑での収穫と地元料理づくり体験

島野菜や果樹の畑での収穫体験と、その食材を使ったシンプルな家庭料理の調理体験を組み合わせたプログラムです。畑の手入れや季節ごとの苦勞、食卓で大切にされてきた味について、農家の方のお話を聞きながら味わっていただきます。

例
02

漁港や市場の見学

食堂や宿で地先の新鮮な魚を使った食事をいただく体験です。魚の種類や漁法の違い、資源管理の取り組みなどについて学びながら、海と暮らしのつながりを感じます。

例
03

伝統的な保存食づくりや加工場見学

塩蔵や燻製、黒糖づくりなど、やんばるで受け継がれてきた保存食や加工品の現場を訪ねます。保存の知恵や季節労働の様子を知ることで、今の食文化と過去の暮らしがどのようにつながっているのかを考えていただきます。

おすすめの体験

亜熱帯のフルーツ／シークァーサー収穫体験／共同売店で泡盛を買って飲む／宜名真のフーヌイユー／家の手伝い／海の男の魚料理／長寿の里と食体験／コーヒー／私の推しパン

体験プログラムなどの情報

○体験プログラム 01

やんばる@ホームダイニング
(やんばる国立公園でなにしよう?)



○体験プログラム 01

いぎみまるごと体験
(NPO法人おおぎみまるごとツーリズム協会)



○体験プログラム 03

定置網漁体験
(KUNIGAMI Fun Trip)



8-6 やんばるともつとつながる体験例 長期滞在・リトリート・学びの体験

関連するストーリー

6-6 祈りの文化と暮らしの息吹 6-7 やんばるの土地に根付く食文化 6-10 地域がつなぐ共同売店
6-11 健康長寿のつながりの文化 6-12 ゆいまーるの人々の絆

インタープリテーションプログラムの例

例 01

畑や地域活動に関わる「暮らすように滞在」

数日から数週間の滞在のなかで、畑仕事や清掃活動、祭りや地域行事の準備などに参加させていただくプログラムです。観光客としての訪問にとどまらず、地域の一人として日々の営みを体験することで、やんばるとの関係性を深めます。

例 02

企業研修や学校合宿と組み合わせたフィールドワーク

企業や学校の研修・合宿において、第6章のストーリーや本章の体験例を組み合わせたフィールドワークを行います。自然体験や地域の方との対話を通して、環境問題や地域づくり、働き方や生き方について考える学びの場として活用していただきます。

例 03

静かな環境でのリトリート・心と体をととのえる滞在

森や海に近い宿泊施設で、散策や読書、軽いワークショップなどを取り入れながら、ゆっくりと自分自身と向き合う時間を過ごすプログラムです。やんばるの自然と暮らしに触れながら、心身をととのえるリトリートとしての滞在のあり方を提案します。

おすすめの体験

ヤンバルクイナの声で目覚める／集落に守られた暮らし／各種自然体験／民泊・集落での宿泊／
行事参加時は寄付金を

体験プログラムなどの情報

○体験プログラム 01

東村の民泊
(東村観光推進協議)



○体験プログラム 01

国頭村森林公園
(公式サイト)



○体験プログラム 03

奥やんばるの里
(国立公園でなにしよう?)



9

よくある質問



9-1

よくある質問

自然・生き物／国立公園・世界自然遺産・自然環境の保全



I. 自然・生きもの

Q1 ヤンバルクイナを見ることはできますか。どこで見られますか？

ヤンバルクイナは沖縄本島北部(国頭村・大宜味村・東村)に生息しており、自然の中で見られる可能性があります。辺戸では、夕方の集落放送に合わせて鳴いています。野生個体は警戒心が強いので、確実に観察したい場合は「ヤンバルクイナ生態展示学習施設(クイナの森)」がおすすめです。

○参考情報リンク 01
環境省HP
「ヤンバルクイナ」



○参考情報リンク 01
ヤンバルクイナ
生態展示学習施設



Q2 やんばるの森ではどんな珍しい植物が見られますか？

やんばるの森には、固有種や亜熱帯性の植物が多く見られます。代表的なものとして、イタジイ(スダジイの地方名)、ヒカゲヘゴやソテツ、イジュ、オキナワセッコクなどが挙げられます。特にイタジイはやんばるの森を構成する主要な種です。イジュやオキナワセッコクは白い花が特徴的で、やんばるを象徴する植物として知られています。

○参考情報リンク 01
環境省HP
「やんばるのいきもの」
植物ページ



Q3 やんばるの森にはどんな鳥や動物が暮らしていますか？

やんばるは固有種の宝庫で、世界中でもここにしかない鳥や動物が数多く生息しています。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ケナガネズミ、ヤンバルテナガコガネなどが代表例で、希少性が高く、自然観察の魅力が大きい地域です。

○参考情報リンク 01
環境省HP
「やんばるのいきもの」
植物ページ



II. 国立公園・世界自然遺産・自然環境の保全



Q4 やんばるが国立公園・世界自然遺産に登録された理由は何ですか？

生物多様性が非常に高いこと、「ここだけ」に存在する固有種の存在があること、生態系のつながりが保たれていることが評価されました。

○参考情報リンク 01
環境省HP
「世界自然遺産パンフレット」



○参考情報リンク 02
やんばる3村観光ポータル
「世界自然遺産やんばるを
知ろう」



Q5 自然保護のために、私たち来訪者が気をつけることはありますか？

「自然を壊さず、持ち出さず、汚さない」が基本で、地域特有の生き物に配慮することが大切です。

○参考情報リンク 01
やんばる3村ルールブック



9-2 よくある質問 体験・観光



III. 体験・観光

Q6 やんばるの森や川を歩くおすすめのトレッキングコースを教えてください。

・やんばる学びの森トレイル

亜熱帯の森をじっくり歩きながら、固有種や森林景観を観察できるルート。体力に合わせた複数のコース設定があります。

・ター滝

ター滝へ向かう道のりでは、川の水に触れたり、土や森の香りを感じたり、鳥のさえずりを聞いたり、自然を五感で楽しみながらトレッキングができます。滝に到着すると、迫力ある水の音や水しぶきを間近に感じることができ、滝つぼでは水に入って涼しさを楽しむこともできます。

○参考情報リンク 01
環境省HP
「やんばる国立公園で
なにしよう？」



○参考情報リンク 02
やんばる学びの森HP



○参考情報リンク 03
ター滝フィールドセンター



Q7 雨の日でも楽しめる自然体験はありますか？

やんばるの森では、雨によって植物の匂いや土の湿り気が感じやすくなるため、「雨の日の森歩き」や「溪流沿いの散策」は、晴れの日とは違った魅力があります。また、マングローブの観察やカヌー体験は小雨程度なら実施されることが多いです。山と水の生活博物館ややんばる森のおもちゃ美術館、ビジターセンター、やんばる世界遺産センター（R8年夏オープン予定）などの屋内施設では、やんばるの生き物や森の成り立ちについて楽しく学ぶことができます。天候を気にせず過ごせる体験スポットとしてもおすすめです。

○参考情報リンク 01
やんばる森の
おもちゃ美術館



○参考情報リンク 02
山と水の生活博物館



○参考情報リンク 02
やんばる世界遺産センター
※R8年夏オープン予定



Q8 外国人でも参加できる多言語のガイドツアーはありますか？

やんばる学びの森で実施されているガイドツアーは、英語と中国語にも対応しており、事前に希望を伝えれば外国語ガイドの利用が可能です。

やんばるにはほかにも多くのガイド事業者があるため、希望に応じて問い合わせてみると良いでしょう。

Q9 子ども連れでも楽しめる体験はありますか？

短い距離の散策路や溪流沿いのコースがあり、季節の昆虫や植物を観察しながらゆっくり歩くことができます。また、川や海のそばでは、浅瀬での水遊びや生き物観察、潮だまり（タイドプール）での磯の観察などもできます。マングローブのカヌー体験等は小学生でも楽しめます。

展示施設やビジターセンターでは、森の生き物ややんばるの自然について学べるコーナーがあり、天候に左右されずに過ごせるのも安心です。

○参考情報リンク 01
マングローブカヤック



9-3 よくある質問 暮らし・文化／アクセス・マナー／季節

IV. 暮らし・文化



Q10 「ゆいまーる」って何ですか？

沖縄の言葉で「助け合い」、「相互扶助(そうごふじょ)」を意味します。もともとは農作業や家づくり、行事などで、地域の人々が協力し合う仕組みとして使われてきた言葉です。「順番に手伝い合い、みんなが助かる」という考え方が根底にあります。

V. アクセス・マナー



Q11 集落を巡るときに注意すべきことはなんですか？

集落は、当たり前ですが日常生活を送られている方たちがいます。“生活空間にお邪魔します”の心で、民家への「立ち入りはしない」「覗かない」など自分がされて嫌なことはしないことが大事です。地元の方にお会いしたら、挨拶をすると交流が生まれるかもしれません。やんばるの自然を守るため、自然の中での行動は自己責任を基本とし、ごみは必ず持ち帰りましょう。トイレは事前に済ませ、迷惑行為は控えてください。決められた道や場所を利用し、火の使用や動植物の採取は行わないようにしましょう。また、動植物を持ち込まないことや、運転時には野生動物の飛び出しに注意するなど、自然と生き物への配慮をお願いします。

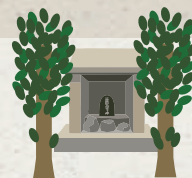
○参考情報リンク 01
やんばる3村ルールブック



VI. 季節

Q12 どの季節に来るのが一番おすすめですか？

やんばるは一年を通して自然の表情が大きく変わるため、どの季節に訪れても楽しめる地域です。



○春(3～5月)

新緑が美しく、山全体が淡い緑に包まれる季節です。キノボリトカゲやヤンバルクイナなど、動物の活動も活発になります。湿度が比較的低く、歩きやすい気候で、トレッキングやフィールド観察に最適です。

○夏(6～9月)

水遊びや海との体験が充実する時期です。川や海での生き物観察、カヌー、シュノーケルなどが楽しめます。ただし、亜熱帯らしく蒸し暑くなるため、体験中の水分補給と熱中症対策が重要です。台風シーズンでもあるため、気象情報のチェックが必要です。

○秋(10～11月)

晴天が多く、森の空気が澄んで過ごしやすい季節です。降水量も落ち着き、ツアーやアウトドア体験が最も安定して楽しめます。希少な植物や昆虫の観察にも良い時期です。

○冬(12～2月)

冬といっても比較的暖かく、気温変化が穏やかです。湿度も低く、長い距離のトレッキングに向いています。夏と比べて虫が少ないのも魅力です。一方で植物の彩りは控えめになります。

○参考情報リンク 01
やんばる3村のフェノロジーカレンダー



10

代表的な
インタープリテーションメディア
プログラム



10 代表的なインタープリテーションメディア、プログラム

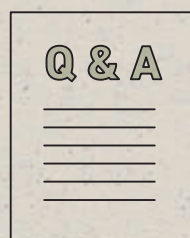
来訪者の旅の「前・中・後」を通して、一貫したメッセージを届けていくことを目指し、本章では、代表的なメディアやプログラムの役割と方向性を整理しました。

10-1 代表的なインタープリテーションメディア、プログラム 事前情報（旅マエ）

「やんばるに行ってみたい」、「どんな場所だろう」と関心をもった人に、やんばるの魅力と訪れる際の心構えを伝える入口となる情報です。媒体としては、観光パンフレット、ホームページ、動画サイトやSNS、旅行会社のツアーパンフレットなどがあります。

やんばるの全体像とストーリーを伝える

本書で整理した「やんばるともっとつながるストーリー」やキーワードをもとに、やんばるの森・川・海、暮らしと文化の魅力を、写真やイラストとともに分かりやすく紹介します。短いコピーや「本質的な問い」P.12を添えることで、「この場所で何を感じてほしいか」が伝わるようにします。



安全・マナー・アクセス情報をわかりやすく示す

自然環境の特性や危険箇所、利用のマナー、アクセス手段や季節ごとの注意点などを、地図やピクトグラムも活用しながら整理します。事前に知っておいてほしいルールやお願いごとを、禁止事項だけでなく「なぜそうするのか」という背景とともに伝えるようにします。



ターゲット別の情報提供

ファミリー、自然志向のエコツアーリスト、文化・暮らしに関心のある旅行者、教育旅行、海外からの来訪者など、来訪者像に応じた情報ページや特集を設けます。やんばるでのおすすめの過ごし方やモデルコースを示し、旅のイメージづくりを支援します。



10-2

代表的なインタープリテーションメディア、プログラム

現地情報(旅ナカ)

現地情報は、やんばるを実際に訪れた来訪者が、その場の体験を通じてストーリーに触れられるようにするための情報です。ビジターセンターや展示施設、集落やフィールドでの解説、ガイドプログラムなど、さまざまな接点で提供します。

展示・窓口案内

ビジターセンターや各施設の展示では、やんばるの自然・文化・歴史を、ストーリー集と連動させながら紹介します。受付・窓口では、来訪者のニーズを聞き取り、ストーリーや体験例をもとに「今日のおすすめの過ごし方」を提案できるようにします。



体験プログラム・ガイドプログラム

自然観察会、集落歩き、カヤックやトレッキング、文化体験、食のプログラムなど、多様な体験メニューを用意します。それぞれのプログラムは、本計画で示したストーリーやエッセシャルクエスションとひもづけ、「何を感じ、どんな問いを持ち帰ってほしいか」を共有しながら実施します。地域ガイドや事業者が、自らの言葉でストーリーを語れるよう、研修や情報提供を行います。



野外解説サイン・ルート案内

トレイルや展望地、集落内の要所には、景色の見どころや背後にある物語、利用マナーを伝える解説サインを配置します。文章量は必要最小限とし、写真・イラスト・地図・QRコードなどを組み合わせて、立ち止まった短い時間でもメッセージが伝わるように工夫します。



店舗や宿泊施設でのコミュニケーション

飲食店、宿、共同売店、土産品店などでも、やんばるのストーリーやキーワードを共有し、メニューや商品、店内ポップ、会話の中で自然に伝えられるようにします。「地域みんながインタープリター」という視点で、日常の接客そのものをインタープリテーションの場として位置づけます。



10-3

代表的なインタープリテーションメディア、プログラム

事後情報(旅アト)

事後情報は、旅が終わったあとも、やんばるとのつながりを持続してもらうための情報です。思い出を振り返り、次の訪問や保全活動への参加につながるような仕組みを目指します。

ウェブサイト・SNSでのフォローアップ

来訪後にアクセスできる特設ページやSNSアカウントを通じて、季節ごとのやんばるの様子や、新しい体験プログラム、保全活動の情報などを発信します。来訪者からの写真や感想を共有する場を設け、「やんばるファン」のコミュニティづくりにもつなげます。



お土産・印刷物を通じたストーリーの継続

お土産品のパッケージやタグ、ポストカードなどに、ストーリーの一節やエッセシャルクエスション、保全へのメッセージを添えます。自宅に帰ってからも、やんばるの風景や物語を思い出せる小さなきっかけになります。



寄付・参加の案内

やんばるの自然保全や地域づくりに取り組む団体への寄付、ボランティアや市民参加のプログラムなどを、ウェブやパンフレットで案内します。「また来たい」「何かしたい」という気持ちを、具体的なアクションにつなげられるようにします。



多言語対応、ユニバーサルデザイン等の方針

やんばる国立公園のインタープリテーションは、日本語話者だけでなく、多様な言語・文化的背景や、年齢・障害の有無にかかわらず、誰もが楽しみ、理解し、安心して利用できることを目指します。本項では、詳細な整備内容は環境省等の計画に委ねつつ、共通の方針を示します。

多言語対応の基本方針

主要な案内表示やパンフレット、ウェブサイトについては、日本語に加えて英語を基本とし、来訪状況に応じて中国語、韓国語などの翻訳を検討します。すべてを完全に翻訳するのではなく、案内内、安全情報、マナー、主要なストーリーなど、優先度の高い情報から段階的に整備します。やさしい日本語版も活用し、日本語学習者や子どもにも分かりやすく伝える表現を心がけます。

ユニバーサルデザインの考え方

文字サイズや色のコントラスト、フォント選択、ピクトグラムの活用など、視認性と読みやすさに配慮したデザインを基本とします。視覚・聴覚などに障害のある方にも情報が届くよう、音声ガイドや読み上げ機能付きQRコード、字幕・要約筆記、手話動画など、段階的な整備を検討します。また、高齢者や子ども連れ、車いす利用者など、多様な来訪者の移動しやすさや安全性について、ハード整備や案内表示と連携して改善していきます。

地域の多様性を尊重する表現

自然や文化、暮らしを紹介する際には、地域の方々の声を尊重し、ステレオタイプを避けた表現を心がけます。宗教・文化的背景や食物アレルギー等への配慮も含め、誰もが安心して参加できる体験プログラムづくりを進めます。

あとがき

本計画は、ゴールではなく、やんばるの豊かな自然や文化、すなわち「やんばるの宝」を5年、10年先の次世代へと手渡していくための「未来日記」です。

「やんばる国立公園インタープリテーション全体計画」は、やんばるを訪れる人々が、ただ景色を見て通り過ぎるのではなく、この地に息づく物語に触れ、「なるほど!」「すごい!」という感動から「ここを守りたい!」という行動へつなげるための道標です。

この計画創りにおいて、私たちが最も大切にしたのは、やんばるに関わる方々と膝を突き合わせ、共に物語を紡ぐ「プロセス」そのものです。そのプロセスこそが、この「やんばる未来日記」の財産だとも思っています。

「何を、誰に、どう届けるか」を語り合う中で生まれた共有と連携の輪は、単なる意見交換の枠を超え、地域の誇りやおもてなしの心を育む機会となり大きな力となりました。

本計画は、決まりや縛りなどのない柔軟なものです。今後も誤った情報の修正や更新を重ね、ワークショップを通じて集まった地域の声を無駄にせず、常に新しい情報として磨き続けることを想定しています。この「未来日記」で示したストーリーが、やんばるの統一感のある情報発信や質の高い自然体験プログラムとして形づけられ、やんばる全体で国立公園の価値を伝える体制へと育っていくことを望んでいます。

人と自然、そして現在と未来。この計画を通じて生まれた協力のネットワークが、やんばるの魅力を持続的に輝かせ、次なる世代が新しい物語を書き加え続けてくれることを願っています。

今日蒔いた種がやんばるの未来を輝かせる。この「やんばる未来日記」が、次の世代にとっての道標となり、人と自然の絆を永遠につないでいくことを願っています。

やんばる国立公園インタープリテーション全体計画編集チーム

やんばるストーリーブック

「人と自然がつなぐやんばる未来日記」

やんばる国立公園インタープリテーション全体計画

発行	環境省沖縄奄美自然環境事務所			
協力	赤嶺 信哉 池原 亜澄 石川 琉人 石崎 美映子 今泉 智子 今泉 みどり 上地 修 上原 知也 大崎 史丸 大島 康生 小野 美穂子 加藤 千加子 金川 憲一 宜野座 愛美	喜屋武 彩花 清武 功 金城 幸夫 金城 尚 久高 奈津子 米須 章仁 坂田 麻季江 佐藤 裕樹 重富 健一郎 下地 正敏 白石 亮博 妹尾 望 染谷 唯 平良 太	高橋 巧 塚脇 竹俊 塚脇 暖華 対馬 有悟 堤 清春 渡久山 尚子 栃木 清佳 仲宗根 隆 中根 航 仲本 いつ美 仲本 光寿 原田 圭 福井 淳市 星野 百香	前田 文彦 眞喜志 敦 増田 耕平 宮城 和菜 山川 安雄 結城 瑛 與古田 惟仁 渡辺 真珠子 和知 みなこ 国頭村 大宜味村 東村 共同売店ファンクラブ
写真提供	岩崎 誠／米須 章仁／当山 昌直／山城 廉太／(一財)沖縄県環境科学センター			
製作	やんばる国立公園インタープリテーション全体計画編集チーム			
製作協力・監修	一般社団法人 日本インタープリテーション協会			

